

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	市原 明日香 【比較社会文化学専攻 2015年度生】	要 旨
論文題目	「後日の再感謝」の談話分析研究一日中の母語場面と接触場面の比較から一	<p>本論文は、感謝談話の中で、以前に恩恵を受けた相手に後日に再会した場面で感謝するという言語行動（後日の再感謝）を研究対象としている。研究目的は、日本語と中国語の母語場面及び接触場面の会話における「後日の再感謝」の言語行動の有無と談話の特徴を比較し、それぞれの場面でどのような異同がみられるのかを明らかにすることである。そのため本論文は日中母語場面の比較（研究Ⅰ）、母語場面と接触場面の比較（研究Ⅱ）、個人別にみた両場面の会話の比較（研究Ⅲ）から構成されている。</p> <p>結果、第一に、日本語の「後日の再感謝」が「コンテキスト化の慣習」であるのに対し、中国語では必ずしもそうではないことが示された。談話中の出現位置や感謝ストラテジーの種類で、日本語と中国語の「後日の再感謝」の差異が解明された。</p> <p>第二に、そのような差異のある「後日の再感謝」が日中接触場面でどのようにやりとりされるのかについて、中国語母語の学習者も日本語母語話者も自らの発話を調整しない傾向が指摘された。その一方で、同一話者のL1中国語とL2日本語を比較すると、両言語の差異を埋める調整行動の例もみられた。</p> <p>これらの結果は、統制された会話データを量的・質的に分析して得られたものであり、感謝の語用論研究と接触場面研究の領域に跨り、日本語非母語話者と母語話者の異文化間コミュニケーションに新たな知見を加えるものとして評価に値するものとなっている。</p>
審査委員	(主 査) 教 授 森山 新	
	(副 査) 准教授 西川 朋美	
	(副 査) 助 教 本林 響子	
	(審査委員) 准教授 伊藤さとみ	
	(審査委員) 教 授 佐々木泰子	